

## 浜岡原子力発電所 3号機 主タービン軸振動計の不具合について

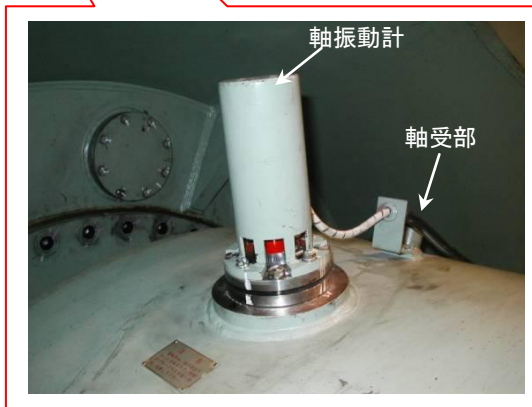
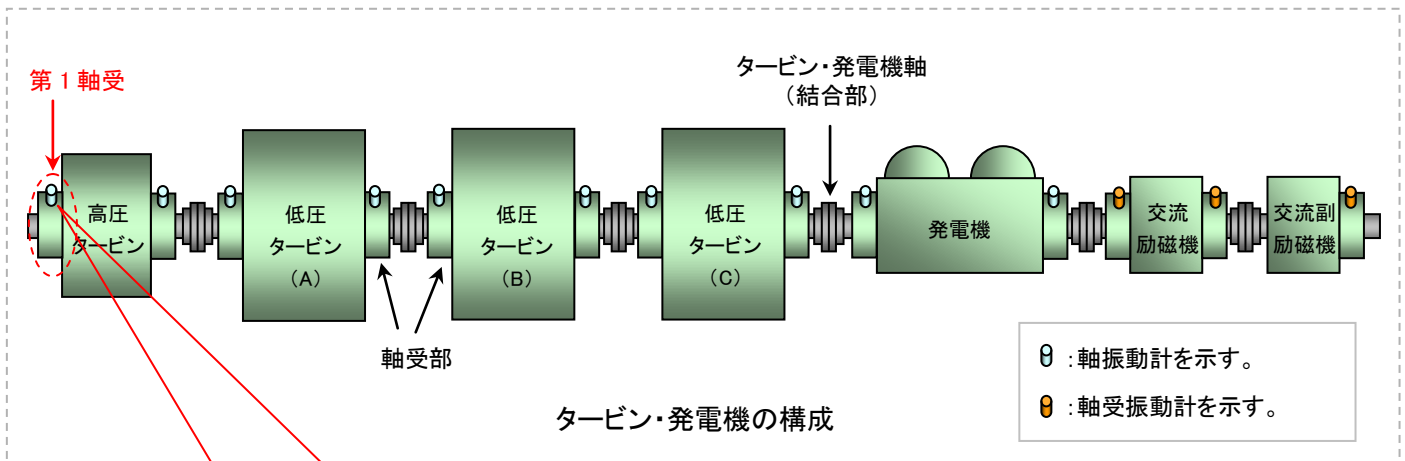
2010年10月28日

発生号機	3号機（定格熱出力一定運転中） ：沸騰水型、定格電気出力 110 万キロワット
発生年月日	2010年10月28日
発生時の状況	<p>当社は、2010年10月28日午前7時11分に、定格熱出力一定運転中の3号機において、「タービン監視計器<sup>※</sup>故障」の警報が点灯し、主タービン・発電機の各軸受部に設置している軸振動計の1つである主タービン第1軸振動値の低下（通常 0.02mm 程度から 0mm へ低下）および第1軸振動検出器回路の断線を示すランプの点灯を確認しました。</p> <p>なお、他の軸振動計および軸受振動計の指示値に異常はなく、主タービンの運転状態に異常はありません。</p> <p>今後、軸受の温度や他の軸振動計の指示値等の関連パラメータの監視を継続するとともに、原因調査および対応を検討します。</p>
放射能の影響	本事象は、放射性物質の漏えいに係わる事象ではありません。
<a href="#">お知らせ基準</a>	運転情報「表 2-20 その他の事象であって、公表が望ましいと判断したもの。」に該当します。

※ タービン監視計器とは、主タービン軸振動や回転数を監視している装置です。

以上

## タービン・発電機の概要



タービン・発電機の軸振動計の写真(例)

3号機には、1基の高圧タービン、3基の低圧タービン、1基の発電機および交流主・副励磁機があり、それらは1本の軸でつながっています。  
この軸を支えるためそれぞれに軸受があり、軸受部には軸振動計および軸受振動計を設置し、振動を連続的に監視しています。  
今回、そのうち、高圧タービン第1軸の振動計に不具合を確認しました。